

鎌倉 ハートナース



第43号 2007年6月発行

特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議

神奈川県鎌倉市御成町18-10 NPOセンター鎌倉

<http://www3.ocn.ne.jp/~npo-kama/>

目

次

理事長挨拶・総会開催

P 2

部会報告

P 3

アンケート結果の報告

P 4

フェスティバル

P 6

登録団体見て歩き

P 9

協働事業推進部会活動経過

P 10

ミニコラム・イベント紹介

P 11

事務局からのお知らせ

P 12



挨拶

鎌倉市市民活動センター運営会議 理事長 岡野正彦

理事長に就任し早1年が経ちました。NPO活動に未熟なそして何も判らない私が、何とかここまで来られたのは、理事の皆様方、事務局長、スタッフの方々の絶大なご支援と、会員の方々のご協力の賜物と厚く感謝申し上げます。とにかく今までとは一味違うNPO活動をしようというのが、関係者一同の願いでした。指定管理者として1年目ということもあり行政にも協力して頂きました。

特に、設備の改善と充実、行政との協働事業、利用者のニーズの把握、事務局長の努力により高校生ボランティア「地域ボランティアエアポート」としての位置づけの依頼を承諾したことは初めてのことと思います。そのために理事会の開催も年間15回に及び、理事自らが活性化に努めました。各部会活動も今までにない担当理事・各リーダーの指導のもと新しい動きをしてまいりました。その活動ぶりは、第8回通常総会で報告した通りでございます。

さて19年度の活動は指定管理者として2年目になります。気を引き締めて対応してまいります。事業の基本方針としては①市民活動支援組織としての役割を強化し、内容の充実をはかる。②自主事業の拡大に努め、自主財源の確保を目指す。③会員拡大の数値目標をもち、財政基盤を強化する。④指定管理業務の実績を積む。⑤組織の質的向上をはかり、研修等に参加する。以上5項目として事業の内容を明確化し、より活性化に努め進化させます。そのために各部会活動が活動しやすいように年間予算を明確化し、部会活動をより充実していただきます。

さらに組織及び財政を強化するために、通常開催されている会議のほかに、理事・部会リーダー・事務局長構成による連絡調整会議を再開し、連絡を密にします。会員の増強及び財政基盤の強化のため、正会員数100人(3/31現在87人)、賛助会員数30人(3/31現在18人)、賛助団体数200団体(3/31現在177団体)を目標とした増強策を押し進めます。

その他、各種研修への参加、定款の整備も必要によって行い、風通しのよい情報が開示されやすい環境作りを実施していく所存ですので、今年度も宜しくご協力ください。

最後になりますが、平成19年度は、我が鎌倉市市民活動センター運営会議の設立10周年記念事業(平成20年)の準備の年となります。そのための準備会議も多く開催されますので会員の皆様方のさらなるご協力を再度お願いいたします。

第8回通常総会

去る5月26日、NPOセンター大船にて第8回通常総会が開催されました。

平成18年度に市から指定管理者として選定された当運営会議。昨年度は、制度導入の初年として、様々な新しいことに取り組んだ1年間でした。

例えば、鎌倉センターの2階に間仕切りを取り付けたり、印刷室を独立させたり、次々とセンター内の環境を整えたことなどがその一例です。また、会議室の空き室状況をインターネットで配信したり、パソコン教室を開催して、IT時代に対応できるスキルを身につけられるよう市民の方のお手伝いしたりと、ハード面、ソフト面にわたり、センターの質の向上に努めてきました。

「指定管理者になるとやりにくくなるよ」という風評とはうらはらに、市から独立した一事業体として認められたことで、かえって、動きやすくなったという面もあったこと、また自主事業にも積極的に乗り出したことなどを18年度事業報告の中で渡邊事務局長は強調しました。

昨年度の事業報告、平成18年度決算報告に続いて、平成19年度事業計画案、収支予算案などの議案が審議され、滞りなく拍手で承認されました。

今後は部会活動をいかに活性化させるかという点が共通の課題であることを確認し合い、今以上に力を注ぎ、知恵を出し合っていかなければならないという意見で一致し、総会は締めくくられました。



【 理事会 】

・ 理事会開催

4 月 6 日 総会準備 5 月 7 日 総会準備
6 月 1 日 総会の反省と今後の予定

【 組織研究部会 】

- ・ 野村総研跡地利用についてのアンケートの集計とまとめ
- ・ 以上の内容をパンフレットにする予定

【 フェスティバル実行委員会 】

・ 委員会開催

3 月 16 日 展示形式、サミットの検討
3 月 30 日 ポスター、チラシについて
4 月 13 日 参加申込団体の確認
4 月 18 日 参加団体への説明会準備
4 月 20 日 参加団体への説明会
4 月 30 日 打合せ、準備

【 財政部会 】

- ・ 寄付募金活動で
事業所など訪問予定

【 研修部会 】

- ・ 部会開催
4 月 18 日・5 月 9 日・6 月 1 日
- ・ ワークショップ開催
5 月 12 日
- ・ フォーラム開催予定
6 月 30 日

【 協働事業推進部会 】

3 月 7 日 部会 研修会について
3 月 13 日 部会 18 年度活動報告、
19 年度活動計画
4 月 20 日 部会 研修会の後フォロー
5 月 14 日 部会 今後にむけて
5 月 31 日 部会 6 月 10 日説明会に向けて
3 月 13 日 合同会議 募集案内について
4 月 20 日 合同会議 設置要項 他
5 月 18 日 合同会議 市の協働事業について
6 月 10 日 合同会議 協働事業募集説明会

理事会・各部会報告

【 広報部会 】

4 月 11 日 部会 (パートナーズ 43 号企画、年間計画)
5 月 16 日 HP 編集会議 (トップページ整理)
5 月 21 日 部会・HP 編集会議 (メーリングリスト検討)
6 月 11 日 パートナーズ 43 号発行

【 相談部会 】

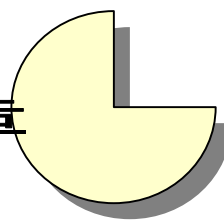
	相 談 人	相 談 内 容
3 月 10 日	NPO 法人 介護事業	事業期間が 1 年未満である法人の減価償却費の計算、住民税の計算
3 月 22 日	個人	NPO 法人の設立について
3 月 24 日	NPO 法人 福祉事業	事業期間が 1 年未満である法人の減価償却費の計算 事業目的と収支事業との関係
3 月 24 日	個人	NPO 法人の設立について
4 月 6 日	NPO 法人 介護事業	NPO 会計ソフトを使った記帳指導
4 月 28 日	NPO 法人 介護事業	決算整理事項と決算書類の作成 税務申告書作成の指導



Q : 介護保険事業を行う NPO 法人ですが、税務署に提出する損益計算書は、収支計算書からどのように作成するのでしょうか。

A : NPO 法人の作成する収支計算書は、資金の収支の結果を示すために作成されていますので、固定資産の取得や借入金の増減など損益計算書には関係のない項目が含まれています。
一方で減価償却費や資産の処分損益など損益計算に必要な項目は含まれていません。
従って一般的には、収支計算書の事業収入から事業費及び管理費を差し引いた経常収支差額から減価償却費を控除した金額が損益計算書上の税引前当期純損益になり、さらに法人税及び住民税を差し引いた金額が当期純損益になります。

センター運営に関する アンケートの報告



はじめに

指定管理者として、早1年を迎えます。センター利用者の皆さまへのサービス向上を目指して、本年2月、全登録団体と正会員の方々に、アンケート調査を実施させていただきました。利用しての感想、参加状況、開館日、情報伝達など、センター運営に関しての忌憚のないご意見をお寄せいただき、有難うございました。以下にその結果をご報告いたします。

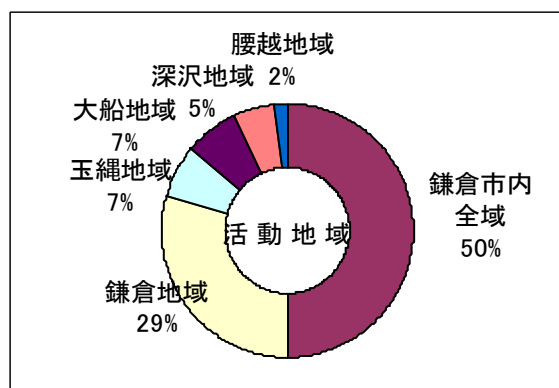
（紙数の関係で全項目を網羅しておりませんことをお断りいたします）

対象：利用登録団体

◇ 利用団体の活動地域

当センターを利用されている利用登録団体は、右のグラフにみられるように約半数(50%)が鎌倉市内全域を、30%が狭義の鎌倉地域を、残り20%が玉縄、大船、深沢地域を対象として活動されています。腰越地域も僅かながら活動対象地域となっています。

また、グラフ化はしていませんが、隣接の逗子市、藤沢市、さらに県内や全国を対象として活動されている利用登録団体も少数ながらみられます。



◇ 参加事業

センター主催の各事業への参加状況中、最も多かったのは、5月に行われる「市民活動の日フェスティバル」(回答団体の約半数が参加)でした。今年度参加総数は昨年より増加し、文字通り、市民活動が定着していく様子がうかがえます。次は、「利用登録団体懇話会」「地下道パネル展」「フォーラム」の順でした。「ファンド審査会」への参加は意外に少なく、市民による市民のための支援を理解し、より多くの団体に活用していただきたいと思いました。昨年度は公開審査により5団体に助成が行われました。平成19年度は、11月に実施いたしますので、奮ってご参加ください。

◇ センター開館日

現在、第1・第3日曜日を両センター開館しておりますが、利用者の皆さまのご意見では、圧倒的に「現状で満足」という結果でした。第2日曜日開館希望数は0団体、全日曜日開館希望は6団体のみでした。時間外利用を「正会員の同席」の形から「責任者登録制」に変更し、利用枠を拡大いたしました。『利用法の講習会』を受講した正会員、個人賛助会員、および各賛助団体より人選された方(各団体2名まで)が「利用責任者」として登録することが可能となりましたので、時間外が利用されやすくなったと理解しております。責任者の方には、時間外利用表の記入、守衛室への連絡、戸締り、など、今後も徹底をお願い申し上げます。

センターを利用されての感想

項目	鎌倉センター			大船センター		
	良い	普通	悪い	良い	普通	悪い
スタッフの対応	87.2	10.6	2.1	82.1	17.9	0
機器類の設備	52.2	45.7	2.2	64.3	35.7	0
会議室	39.5	52.6	7.9	26.9	57.7	15.4
情報発信	47.4	52.6	0	37.5	62.5	0
情報収集	37.1	62.9	0	26.1	73.9	0
交流	27.3	63.6	9.1	18.2	68.2	13.6

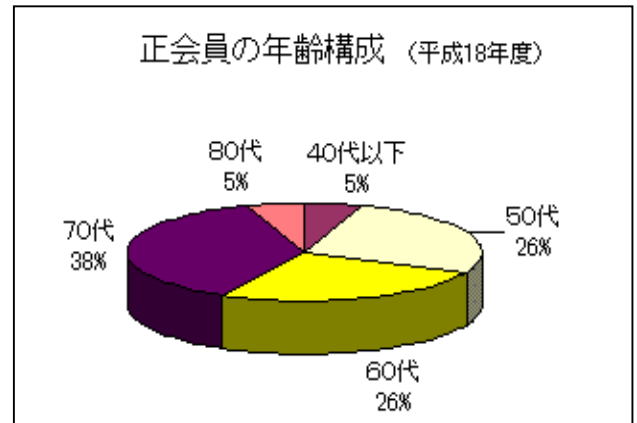
◇ センターを利用されての感想

左表の各項目について、鎌倉・大船センターそれぞれの「良い」「普通」「悪い」の回答では、スタッフの対応は両センターとも「良い」が8割を占め、機器類の設備についても、「良い」の比率が高く、高い評価をいただいていることがうかがえます。会議室、情報の発信・収集についても、「普通」「良い」を合わせて大方を占めますが、大船の会議室に「悪い」の比率がやや高いのは、当センターにとっての今後の検討課題といえましょう。また、交流についての回答からは、団体の方々が、交流の場を望まれている様子がうかがえます。

対象:正会員**○ 正会員の年齢構成**

正会員の年齢構成は、右グラフにみられるように70代が3割強で最多でした。ついで60代、50代が同割合で全体の半分を占め、残り1割強が80代・40代となっています。

以上から、当運営会議は50代から70代の年齢層の会員が多く活動していることがうかがえます。

**○ 今後、希望されることについて****フォーラム・研修に希望すること**

- ・ 時世に即した必要度の高いテーマで、若い世代にもアピールする必要がある
- ・ 登録団体を結集した、継続的な事業を創造すること
- ・ 現在問題とされていることについてのテーマ
- ・ 医療問題、診療代料金、医師の質の問題
- ・ NPOセンターの目的は市民活動の自立と活性化に寄与することであり、主な事業は市民活動支援である。NPO センターでなければやれないものをやるべき
- ・ できるだけ、予定を早めに連絡希望
- ・ 会員の意見を聞いて企画すること

NPO センターが発展するためのご意見

- ・ 会員数を増やし、経済的な基盤を作ることが必要。運営会議がNPO支援のためのNPO法人であることから、鎌倉市民の防災について行政や自治会との連携をとり、即応的な態勢を作る活動を行い、支援や協働の意識を高めていくこと
- ・ 指定管理者となり、内容のあるものになってきている感じがする。広報などお知らせを見ても、そのように思う
- ・ 類似の活動をされている会がかなりあり、活動内容によっては整理した方が良いと思う
- ・ 身近な親近感のある団体。昨今次々発表されている活動は若い世代が参加しやすい。企画もおもしろい。自分もそういう団体が必要だったという活動、協働もよいのではないだろうか
- ・ NPOセンター存在の意味(趣旨、目的など)の再確認。発足から今までどんなことをしてきたかの確認(良かったこと、悪かったこと)その評価をもとに対策を検討
- ・ 各種イベントの開催、それには、市民へ PR すること
- ・ 経験にとらわれずに、どんどん新しいことにチャレンジ実行する

**ま と め**

大変お忙しい活動の合間に、会員は28%、団体は17%の方々が、ご意見をお寄せくださいました。皆様がNPOの運営を真剣にお考え頂いていることが判り感謝いたしております。

皆様の熱気に包まれ、センター運営に関わる者一同、気持ちを新たにNPO発展に対する皆様のご意見を受け止め、改善する点は出来る限り早急に改善をし、登録団体を支えるNPOセンターの活性化と発展につなげたいと思います。有難うございました。

第9回 かまくら市民活動の日 フェスティバル 5月12日(土)～13日(日)

『楽しもう 出合いの場』 NPOセンター大船にて

1日目



好天気に恵まれ、5月12日(土)、13日(日)に第9回かまくら市民活動の日フェスティバルが開催されました。

今年は53団体がパネル展示や団体プレゼンテーション、交流サミットに参加しました。

似顔絵教室・アジサイ展示・手作りケーキ販売など、多数の展示・販売もありました。

また、キッズコーナーや喫茶コーナーでも団体間の交流がもたれました。

団体プレゼンテーション



参加団体

- ・キープ鎌倉クリーン推進会議
- ・かまくらシニアネット交流会
- ・鎌倉シチズンネット
- ・大船観音前マンション問題にとりくむ市民会議
- ・鎌倉友の会
- ・玉縄桜をひろめる会

映画上映



ふだんぎコーラス



シンポジウム



「市民活動を考える」

ワークショップ



団体交流サミット



キッズコーナー



手づくりの紙芝居「知りたがりのジョージ」を上演しました。英語に親しみがもてるように、一文ずつ英語と日本語を交互に読んでみました。子供たちが最後まで集中してくれましたので、英語への関心が高いと感じました。販売されていたお弁当やお菓子、特に上新粉が入ったケーキや白あんの焼き菓子がとてもおいしかった。(英会話ルミナス・大原 妙子)

防犯教室



いつもフェスティバルに行くと、「自分も頑張らなきゃ！」って気持ちになります。ハッ！と驚くアイディアあり、笑顔あり、温かさあり、時に厳しさもあり。

小さなことで悩んだり、弱音を吐いてる自分に、広い視野を持ち、生き活きと前向きに取り組んでいる皆さんから、喝を入れられているような・・・。

来年は、10回目の節目を迎えるとのこと。鎌倉の市民活動の新たな展開に期待しつつ、微力ながら私もお手伝いさせて頂きたいと思っています。(市民活動課 高橋悠子)

「玉縄城の古い寺・新しい寺めぐり」

コース：交流センター → 貞宗寺 → 円光寺 → 久成寺 → 本在寺跡 → 清水小路 → 城宿寺屋敷 → 円光寺曲輪(円光寺旧跡) → 七曲坂 → 龍宝寺

(両日で56名参加)

《玉縄歴史の会主催(12日・13日)》



団体プレゼンテーション



参加団体

- ・ キープ鎌倉クリーン推進会議
- ・ かまくらシニアネット交流会
- ・ 鎌倉シチズンネット
- ・ 大船観音前マンション問題にとりくむ市民会議
- ・ 鎌倉友の会
- ・ 玉縄桜をひろめる会

映画上映



楽しもう 出合いの場

ナルクは、フェスティバルに今回初めて参加しました。セミナーでは、各団体の運営上の問題点と解決に向けて話し合いがあり、各団体ともリーダー不足と会員増強策がポイントでした。サミットでは、参加団体の活動説明があり、ナルクの活動内容に多くの質問が寄せられ大変嬉しく感じました。自立、奉仕、助け合いの、ナルクのシステムを、もう少しお話しできれば良かったと思います。

各団体の交流と助け合いの輪が、より良い市民活動に発展することを願っています。(ナルク・早川 和子)

2日目



キッズコーナー

手づくりの紙芝居「知りたがりのジョージ」を上演しました。英語に親しみが持てるように、一文ずつ英語と日本語を交互に読んでみました。子供たちが最後まで集中してくれましたので、英語への関心が高いと感じました。

販売されていたお弁当やお菓子、特に上新粉が入ったケーキや白あんの焼き菓子がとてもおいしかった。(英会話ルミナス・大原 妙子)

団体交流サミット



「玉縄城の古い寺・新しい寺めぐり」

コース：交流センター → 貞宗寺 → 円光寺
→ 久成寺 → 本在寺跡 → 清水小路 →
城宿寺屋敷 → 円光寺曲輪(円光寺旧跡) →
七曲坂 → 龍宝寺 (両日で 56 名参加)
《 玉縄歴史の会主催(12 日・13 日) 》

防犯教室





アジサイ販売



展示風景

今回も朋の常設店から手づくり品を持って参加しました。来場者に活動を紹介しながら販売し、周知に努めました。2日目のサミットは、パネルをバックに話し合い、他団体の活動がわかりやすく良かったと思いました。しかし、サミット中は部屋に入りにくく来場者が途切れてしまい、残念でした。

次回は、来場者も参加しやすい形態を作るのでしょうか。

(朋ボランティアグループ・齊田 聖子)



交流スペース



似顔絵コーナー



喫茶コーナー

フェスティバルを終わって

様々な市民活動に参加している方々はとても積極的で楽しそう。こんな人たちがもっともっと連携して地域のために活躍して欲しい。そんな想いでフェスティバルは企画されました。特に2日目に行われた自らの団体宣伝をしながら他の団体の方と話し合う『サミット』は今回の目玉。「盛り上がりすぎて時間が足りない」とのうれしいご指摘もいただきました。

少数精鋭の実行委員たちにとっては、新しい試みで試行錯誤の日々ではありましたが、みんなエネルギー。こちら実行委員会の連携も素晴らしかったのでは・・・などと感謝いたしています。

(第9回かまくら市民活動の日フェスティバル実行委員長 香山 隆)

登録団体見て歩き

鎌倉友の会

鎌倉友の会は1931年の創立です。

「友の会」そのものは1930年、羽仁もと子創刊の雑誌「婦人之友」の読者によって創設された女性団体で、全国友の会が発足した翌年、鎌倉在住の6人の読者によって設立されました。

友の会のモットーは『家庭は簡素に、社会は豊富に』、『健全な家庭を育み、地域に働きかけ、さらに国際社会の平和のために、その活動を広げよう』というもので、主な活動は

- 1) 生活研究
- 2) 家事家計講習
- 3) 友愛セール（バザー）
- 4) その他（料理講習、夏休み子供教室、内外社会福祉事業への援助、講演会の開催など）と多彩なものです。

生活研究は「もより会」とよばれる各地区のグループ活動をベースにしており、鎌倉友の会にはこのもより会が市内各地に15ほどあります。

この他に「グループ勉強会」というテーマ別の会合があり、グループ勉強会には

- ・工芸グループ・洋裁グループ・乳幼児グループ
- ・食のグループ・高年グループ・洗濯グループ

などがあります。

これらの各グループは、30歳代～80歳代まで幅広い年代の方が参加しているので、年齢をまたいだおつきあいが広がるのだそうです。

鎌倉友の会の年中行事に、友愛セール（福祉バザー）、家事家計講習会、料理教室、夏休み子供教室、講演会などがあり、この5月には鎌倉在住の料理研究家、辰巳芳子先生の講演会を催しました。

「いのちのスープ」の作り手として著名な辰巳先生の講演会だけに遠くは山口県、長野県からの参加もあり芸術館の大ホールは満員の盛況でした。

また鎌倉友の会創立以来の悲願だった会員活動の本拠地となる「友の家」建設が具体化し、2007年4月25日に起工式を行い、フラワーセンターに近接した地に11月の完成に向かって工事が進んでいます。（M. H）

連絡先：0467-44-0669（森 千恵）



NPO 法人 鎌倉市ファミリーサポートセンター市民会議

鎌倉市ファミリーサポートセンター市民会議は主に次の2つの事業を行っています。

- 1) 「鎌倉市ファミリーサポートセンター」の運営
- 2) イベント保育スタッフ派遣事業「かまくら子育て応援団」

「鎌倉市ファミリーサポートセンター」の運営は平成14年以降鎌倉市の委託を受けた事業で、①子育て支援、②高齢者支援、③障害者支援の3分野で、手助けをして欲しい人（依頼会員）を、手助けをしたい人（支援会員）が有償で支援する会員組織の事業運営です。

センターのアドバイザーの仲介により紹介された依頼会員と支援会員が事前に支援の仕方（内容）、支援の時間、支援の頻度などについて合意すると支援が始まります。

現在、依頼会員数は1200人を超え、支援会員は400人余りとのことです。



【センター窓口】

【保育】

センターではアドバイザーが月曜日から土曜日までの午前9時～午後5時まで相談に乗ってくれます。休館日は日曜、祝日、年末年始、レイ・ウェル休館日（月末の平日）です。

〒247-0055

神奈川県鎌倉市小袋谷2-14-14 レイ・ウェル鎌倉2階

TEL/FAX：0467-42-7415 と 0467-43-5401

Email：famisapo@pluto.plala.or.jp

<http://business3.plala.or.jp/kfsc/index.htm>

自主事業の「かまくら子育て応援団」は、いろいろな団体が会議やイベントを開く時、別の部屋で子供たちを預かって活動を間接的に支援する事業です。（M. H）

市民会議事務局：ファミリーサポートセンター内

TEL：090-6471-6029

Email：shiminkaig@bz01.plala.or.jp

協働事業推進部会活動経過

いよいよ、今年度(平成 19 年度)から市民活動団体と鎌倉市による協働事業の公募が始まります。

平成 14 年 7 月「NPOと行政職員による協働推進研究会」(以下研究会という)が発足してから 5 年が経過しました。平成 15 年 3 月に第 1 回報告書、16 年 3 月に第 2 回報告書、17 年 3 月に最終報告書『NPOと市が共に汗する仕組みづくり ～システム「協働事業の循環」～』をまとめました。最終報告書提出後、研究会を解散しました。NPO側は「協働事業推進部会」(以下協働部会という)として、行政側は「鎌倉市NPO等との協働事業推進庁内連絡会」を設置して、最終報告書で提案された仕組みの実現に向けて検討を続けました。

平成 19 年度に試行する市民活動団体提案の協働事業の選定、仕組みの流れの検証を行うため、協働部会と平成 18 年 6 月に設置された「鎌倉市協働事業推進連絡会」(以下連絡会という)が「合同会議」を設け、協議を重ねました。アンケート調査、ヒアリングの結果、あくまでも試行事業と位置づけ協働部会が 2 団体を選定、事業提案をしてもらいました。合同会議、提案事業の担当課でヒアリング、協議等を行い事業化を目指しましたが、残念なことに事業化には至りませんでした。成立させることが出来なかった最大の原因は、協働部会と連絡会との認識のズレにあったと思います。折角チャレンジした 2 団体にとって、これが単なる苦い経験で終わることなく、次の段階に進めることを願っています。(報告書にまとめてあります)

何故、事業化できなかったのか、事業化するには何が必要なのか。19 年度公募のスタートにあたって今一度、協働の基本的な考え方、協働事業のあり方を再確認し共有するため、久住剛さん(NPO法人パブリックリソースセンター代表理事)を講師に迎えて講演会「市民・NPOと行政の創造的な『協働』のつくり方」を開催しました。講演に入る前、協働部会の経過報告「市民と行政との協働事業推進についての経緯」を聞かれた久住さんから「鎌倉では途中の協働を重ねながらやっているということで、これは大変大事なことだと思います。仕組みができてしまうと同じように見えますが、プロセスをきっちりやっているかどうかでその後の動きが違って来る。鎌倉はまさに行政と市民が協働でついている。すごいですね。」と嬉しいコメントをいただきました。私達も遅々としてではあるが確実に前進しているのだと勇気づけられました。

講演の中で今、一番必要としている協働の考え方・パートナーシップの原則を“電車ごっこ”と“二人三脚”という楽しい例えで以下のように話されました。

「パートナーシップの原則として一つ目は、“対等な関係”。何となく御上(行政)のほうが偉いという気になってしまうこともあると思いますね。逆に、強い市民は役人を見下しているということもあるかもしれません。協働ではお互い見下したり蔑んだりしてはいけません。私はこのことを“電車ごっこ”と“二人三脚”を例に話すのですが、最近の若い人は電車ごっこなどやらないからこう言ってもわからない。「♪♪運転手は君だ、車掌はぼくだ・・・」なんて歌を誰も知らない。ここに人達はわかりますよね(笑)。電車ごっこでは、運転手は自分の行きたいところに勝手に引っ張っちゃう。車掌はついていく。この関係はパートナーシップ(協働)とは呼ばない。一方、二人三脚の場合は相談しながらペースを合わせていかないとバタッと倒れてしまう。仮に片方の力が強いとしても、方向を相談し合わないと進みません。協働も“対等な関係”でないと、初期の目的である受益者の満足が得られないことになってしまいます。この二人三脚のような関係を協働と呼びます。

二つ目に、“双方の独立性”が大事。特に、市民団体側の独立性が大事だということです。依存してしまうとダメですね。

三つ目、違いを認めた上でお互いの組合せをうまくやれば上手に出来るかもしれない。無理矢理箱に入れようとするNPOのもっている良さがなくなってしまうじゃないですか。ついついそれをやりがちですね。」

また、いくつかの事例報告の中から改めて協働事業のあり方が具体的に見えてきました。「落書き消し」の事業(横浜市)を例にとると、なぜ協働でやるのかがより明確になりました。落書きの場所が市の所有地、管理地が多く、市民側が勝手に入れない。市側に様々な調整をせよ。ともすれば行政側には財政的資源の提供を求めがちであったが、この調整をする許認可権も行政の一つの資源という観点がとても印象的でした。

従来の委託、助成金型から脱皮した協働事業が一つでも多く提案されることを期待しています。ふるってご応募ください。



(協働事業推進部会 深江南子)

定年で得られるもの

定年になって得られるものは何か。

なんといっても「自由な時間」が第一に挙げられるでしょう。40 年間会社勤めに費やした時間は約 10 万時間(10 時間×250 日×40 年)なら、定年後 20 年間の自由時間も少なく見積もっても 10 万時間(14 時間×365 日×20 年)に達します。

そして定年になって得られるものの第 2 番目としては、「ある程度の経済的余裕」が挙げられるのではないかと考えます。人によってばらつきがあることは否定できませんが、退職金、預貯金、公的年金等によって得られる余裕のことです。

第 2 の人生は、第 1 の人生とは異なることは否定できない。第 2 の人生すなわちシニアライフを前向きに生きるとは、結局のところ
・お金を大切に守り育てながら(経済) ・健康に支えられて(健康) ・有り余る時間を有意義に過ごす(生きがい、心)
ということだと考えます、もちろん前向きに生きるその生き様は多種多様ではありますが・・・。

FP(ファイナンシャルプランナー)をしていますので、この際退職金の重要性を強調したいと思います。定年で手にする退職金は、今までの労働のご褒美。今後精一杯働いてもこれだけのお金は通常は得られない。同時にこれからのご夫婦の生活資金の大事な柱。夫だけのものではない。

退職金のこれからの使い道をはっきりさせ、使い道に応じた運用(定期預金、国債、投資信託等)をすること。そして何よりもそれらの情報を夫婦で共有することが大切です。

これからの使い道がはっきりしていないお金、配偶者・パートナーには内緒のお金。うまい話や悪徳業者の犠牲になるのはこういうお金ですのでご注意ください。

【 いしかわ かつみ 社会保険労務士・ファイナンシャルプランナー 城廻在住 】

イベント情報

AMDA鎌倉クラブ チャリティーコンサート IX

日中国交正常化35周年 日中友好音楽交流のつどい

開 催 日：平成19年9月2日(日)14時(開場13時30分)

場 所：鎌倉芸術館 小ホール

【一衣帯水】司会 有田真子

田 大成(テノール) 呉 少媛(ピアノ)

箏曲絃伶会 琴演奏

漢詩朗詠 佐藤敏彦 根津章伶(箏) 渡部光(フルート)

長唄 杵屋勘志津

鎌倉新フルート合奏団

チ ケ ッ ト：前売 2500円 当日 2900円

主 催：AMDA鎌倉クラブ

問 合 せ 先：TEL 090-4667-7298(事務局 吉田方)

e-mail yoshida.isao@nttcom-east.co.jp

腰越・神戸川(ごうどがわ)の清掃

広町の森に湧き、津村を潤し、腰越漁港に流れでる腰越を象徴する川・神戸川。神戸川の清掃を腰越中学校の生徒と共にいきます。

日 時：平成19年6月17日、7月22日、8月19日

10月21日(全て日曜日) 10時

場 所：腰越行政センター前 集合 ※雨天中止

持 ち 物：軍手、長靴、タオル

主 催：腰越まちづくり市民懇話会

問 合 せ 先：TEL/FAX 0467-32-1478(市川)

生きがいと健康 PARTⅡ—元気で社会に役立つために—

わたしたちは、まだまだ元気です。社会に何か役立つことができれば何よりも思います。さあ、皆さんと一緒にできることを考えてみようではありませんか。

日 時：平成19年6月30日(土)13:00～16:00

場 所：鎌倉市福祉センター 第1・2会議室

参 加 費：無料 定員100人

パネルディスカッション

パネリスト 田中 健一郎 氏

「これからのライフプランをどう考えたらよいか」

坂口 武三 氏

「わたしの定年後の就労体験」

斉藤 真佐代 氏

「いきいき健康体操」

コーディネーター 加藤 卓司 氏

(各氏、かながわ健生クラブ 健康生きがいづくりアドバイザー)

主 催：鎌倉市市民活動センター運営会議

後 援：鎌倉市、鎌倉市社会福祉協議会

問 合 せ 先：NPOセンター鎌倉

TEL 0467-23-3000(内線2655)



事務局からのお知らせ

新印刷機導入のお知らせ

5 月より NPO センター鎌倉に新印刷機が導入されました。しばらくお試し期間とし、団体の皆さまにご利用いただきました。「仕上がりがきれい」「特に写真がはっきり印刷される」などの感想をいただいております。

6 月からは、新料金になりますのでよろしくお願いいたします。

また、新印刷機は印刷室に移しました。印刷室への通路には屋根を設置し、雨の日の移動にも対応できるようにいたしました。

なお、当分の間、NPO センター鎌倉のみ、時間外利用での印刷機の使用はできません。

※NPO センター大船では、従来どおりの印刷機をご利用いただけます。

新印刷機使用料の改定について

NPO センター鎌倉の新印刷機利用料金のみ改定になります。

マスター代	A 3・B 4 版	A 4 版以下
1枚～10枚	50円	40円
11枚～20枚	40円	40円
21枚以上	30円	30円

トナー代	(10 円未満切り上げ)
1～ 50 枚	一律 40 円
51～ 100 枚	一律 60 円
101～1000 枚	単価 0.58 円 (10 枚単位)
1001～3000 枚	単価 0.56 円 (50 枚単位)
3001～5000 枚	単価 0.54 円 (100 枚単位)
5001 枚以上	100 枚単位で 50 円ずつ加算

※詳細は、センターに問い合わせください。

時間外利用登録について

時間外利用の責任者に登録できるのは、正会員及び賛助団体から 1～2 名で、講習を受けていただいた方となっております。

なお、当センターに新規登録された団体につきましては、センター利用に慣れていただくために 3 か月ほど時間内でのご利用をいただいてから、時間外利用登録をお願いいたします。

鎌倉パートナーズをホームページに掲載

「鎌倉パートナーズ」は鎌倉 NPO センターのホームページに掲載しています。

ホームページでは、カラー版が掲載されていますので、是非ご覧ください。



会員募集中 !!

市民運営を応援してください

正 会 員 年会費 2000 円
 個人賛助会員 年会費 2000 円以上
 団体賛助会員 年会費 3000 円以上
 (郵便振替) 口座番号 00280-4-36386
 口 座 名 鎌倉 NPO センター運営会議

正 会 員 数 : 86 名
 個人賛助会員数 : 16 名
 団体賛助会員数 : 188 団体 (6 月 1 日現在)

平成 19 年 6 月 1 日現在 利用登録団体数: 322 団体

お願い 登録内容(連絡先・代表者・活動内容等)が変更された場合は速やかにご連絡ください。

編集・発行：特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議
 神奈川県鎌倉市御成町 18-10 鎌倉市市民活動センター

NPOセンター鎌倉

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10
 TEL: 0467-23-3000 内線 2655
 TEL/FAX: 0467-60-4555(直通)
 e-mail: npo@chive.ocn.ne.jp



NPOセンター大船

〒247-0061 鎌倉市台 1-2-25
 (たまなわ交流センター 1 階)
 TEL/FAX: 0467-42-0345
 e-mail: npo2@abelia.ocn.ne.jp